

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	県立早島支援学校	実践者名	岬 和希
実践場面 (教科)	中学校2年「数学」		
単元・題材名	単元：連立方程式		
学習目標・ねらい	連立方程式の解法を理解し、計算しよう		
対象の児童生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ I 類型（中学校の教育課程に準ずる教育課程）の生徒である。 ・ 小集団の中で授業を受けている。 ・ 書くことと読むことに困難さがある。書いたり読んだりすることに一生懸命になってしまい、授業展開についていけず、内容の理解が進まない状況であった。 		

活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する

書きと読みの困難さのある生徒に対して、iPad アプリを使って授業を行った。集団での学習であるため、書く作業をしていて授業からおいて行かれることがよくあった。そのため、書く負担を軽減できるような工夫を行った。

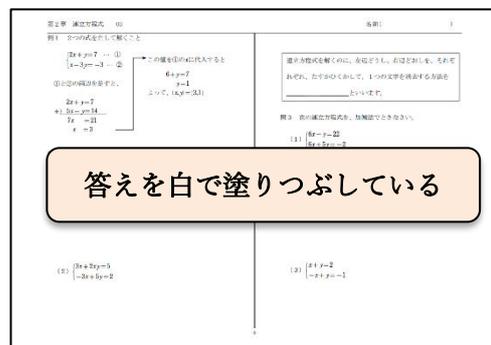
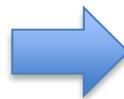
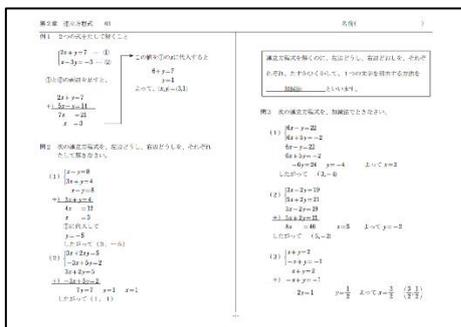
＜事前準備＞

アプリ「GoodNotes5」を使用。

授業プリントは答えや計算の過程をあらかじめ記入したものを用意しておき、PDF のデータにして iPad に送る。

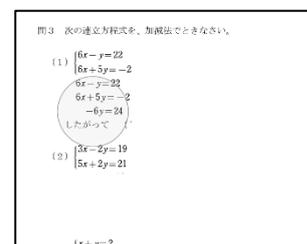
GoodNotes5 で答えや計算過程の部分を【白】のペンで塗りつぶし、見えないようにしておく。

答えを塗りつぶしたデータを生徒の iPad に送信し、授業で使用する。



「GoodNotes5」で教師から本時の授業プリントを受け取る。

- ① 計算や言葉など、できるところは自分で書き込んだり、マーカーを引いたりする。
- ② 書く量が多かったり、計算で遅くなったりして先生の話が聞けない場合は白く塗りつぶされた答えを【消しゴム】機能でなぞることであらかじめ書かれた答えを表示する。
- ③ 授業終了後、印刷してプリントファイルへ保存する。



活用のポイント・改善策等

・ 生徒は書く作業が簡略化されたことで、授業中に教師の話の聞いたり内容を理解したりすることに集中できるようになってきた。書くこと、読むことに時間を取られそうな場面でも、答えが書いてあるという安心感があり、授業が受けやすくなったと生徒本人も感想を述べている。

・ 改善点としては、iPad を使って書き込むため、iPad を使って書く練習がもう少し必要であると感じた。別の機能をタップしてしまい、慌てるという様子が何度か見られている。何度も練習するうちに書く作業に慣れ、授業に取り組みやすくなった。